

敦 賀 斎 苑
個別施設計画

平成31年5月

敦賀市

第1章 背景・目的

1-1 背景

敦賀斎苑は、敦賀市西部に位置し、緑豊かな自然環境との調和を図るため日本庭園などの修景施設を設け、無煙・無臭機能等を備えた火葬棟と、ゆったりしたスペースの待合ロビーや和室を利用して、収骨までの間、心安らかにお待ちいただくための待合棟の二棟からなっている。

また、大規模災害時に対応する施設としての位置付けもされている。

しかし、当施設は平成7年の稼働から今年で23年を経過し、近年施設の老朽化が顕著となっており、今後、施設等の設備を更新、改修等で延命化を図る必要がある。



【正面】



【玄関ホール】

1-2 目的

「敦賀斎苑の個別施設計画（以下「本計画」という。）」は、上記の背景を踏まえて敦賀斎苑の利活用面での質の改善も考慮しながら、整備方針や優先順位を設定し、施設の更新時期の分散や整備に要するコストの縮減と平準化を図ることを目的として策定する。

1-3 計画の位置付け

敦賀市公共施設等総合管理計画



敦賀斎苑の個別施設計画

1-4 計画期間

平成31年度から40年度までの10年間とする。ただし、社会情勢の変化等による見直しや、敦賀市総合計画の策定期間には、内容を反映させるため改定していくことになる。

1-5 対象施設

敦賀市が保有する敦賀斎苑を対象とする。

施設名	所在地	構造	建築年月	建物延面積	敷地面積
敦賀斎苑	敦賀市金山 3号1番地1	鉄筋コンクリート造 一部2階建	平成7年5月	2,677.7 m ²	19,900 m ²

第2章 敦賀斎苑のあり方

2-1 設備機能の整備と充実

敦賀斎苑は、緑豊かな自然環境との調和を図るべく日本庭園や築山などを集計施設として設け、公害防止のための無煙、無臭化機能等を備えた火葬炉を持つ火葬棟と、ゆったりしたスペースの待合ロビーや和室を利用して、収骨までの間、心安らかにお待ちいただくための待合棟を設け、人生の終焉を迎えるに相応しい場として充実を図る。

第3章 敦賀斎苑の実態

3-1 敦賀斎苑の現状

現在、多くの自治体では少子高齢化により人口の減少が加速しているところであるが、高齢化により死亡者は増加傾向にある。

「多死社会」が到来しつつある中、火葬件数の増大化が見込まれており、各自治体は対応を急いでいる。

敦賀斎苑においても火葬件数は毎年増加しており、平成29年度は10年前より年間100件以上、約15%の増加となっている。

3-2 建物施設の現状と課題

敦賀斎苑は、これまで部分的な改修や修繕を行い、施設維持を行ってきたが、供用開始から23年が経過し、建物や附属設備の老朽化が進行しており、今後は大規模な改修・修繕が必要となっている。

3-3 将来負担コストの現状と課題

市有建物施設の将来負担コストは、「敦賀市公共施設等総合管理計画」によると、公共施設を全て保有し続け、現在と同規模の面積及び耐用年数で建替えた場合の平成29年度（2017年度）から平成68年度（2056年度）までの40年間の公共施設の将来更新費は、総額1,638億円、平均41.0億円／年と予想される。

また、平成29年度（2017年度）から平成48年度（2036年度）までの20年間は、建替え時期が集中し、平均49.5億円／年の将来更新費が必要となり、単年度の費用が大きく不足するおそれがある。

敦賀斎苑においては、今後予想される大規模な修繕について、施設の長寿命化を検討する上で、計画的な改修・修繕を行い財政負担の軽減と平準化を図っていくことが必要となる。

第4章 敦賀斎苑の基本的な整備方針

4-1 敦賀斎苑の配置

施設の位置図



4-2 敦賀斎苑の施設規模等の方針

敦賀斎苑は、敦賀市西部に位置し、国道27線バイパスからのアクセスもよく、隣接する施設、家屋等もほとんど無く、自然環境との調和がとれた施設となっている。

また、大規模災害時に対応する施設として重要な位置付けもされていることから、現状を維持していく必要がある。

4-3 整備の基本的な方針

敦賀斎苑は、人生の終焉を迎えるに相応しい場として市民生活における重要な施設であるため、施設運営に影響が生じる前に優先度に基づく修繕や更新を行い、施設の維持を図る必要がある。

(施設の主な課題)

○建築年次が古く施設改修を要する建物の整備

○建物や敷地等の安全確保

施設の課題に対しては、計画的に施設の整備を進める。

今後の改修・修繕計画概要

○平成31年度	火葬炉設備その他改修（火炉台車2台補修他）	4,768千円
○平成32年度	火葬炉設備その他改修（炉内煉瓦部分一部張替他） 非常警報設備・照明設備端末器取替他	15,022千円
○平成33年度	火葬炉設備その他改修（排気ファンオーバーホール他）	6,428千円
○平成34年度	火葬炉設備その他改修（火葬台車全体交換2台他）	10,010千円
○平成35年度	火葬炉設備その他改修（炉内煉瓦部分一部張替他）	7,410千円

4－3－1 施設の長寿命化の基本的な方針

敦賀市公共施設等総合管理計画の取組方針を踏まえ、これまでは、財政上の制約もあり修繕や設備の更新が十分でなかったため、老朽化した公共施設等は、不具合が発生した際に予定していなかった多額の修繕費が発生することがあった。今後は、これまでの不具合が顕在化してから対応する手法（対処療法型）から、劣化箇所の有無や兆候を早期に把握し対応する手法（予防保全型）へ移行を図り、公共施設等本体や付属設備の性能・機能の維持を図る。

4－3－2 改修等の整備水準

一般的な施設の改修には、屋上防水、外壁改修、空調設備の更新があり、本市の敦賀斎苑においても、これまで計画的な整備を進めていたが、今後も更新を行っていく予定である。

また、これに加えて、時代とともに要求される機能も見据えながら改修に努め、施設水準の向上を図る。

4－3－3 施設の維持管理

施設修繕の実施においては、施設状況の調査を通じて把握した内容に基づき、施設の維持管理を検討する。

また、電気工作物や消防設備等の設備保守点検業務結果に基づき、劣化及び修繕箇所を把握し、適正な維持管理に努めていく。

第5章 長寿命化等（整備等）にかかる継続的運営方針

5－1 情報基盤の整備と活用

敦賀市公共施設等総合管理計画で作成している「施設カルテ」を活用して、施設の基本情報、建物の基本情報、コスト情報や利用情報を一元管理していく。

5－2 推進体制等の整備方針

必要に応じて、敦賀市公共施設等総合管理計画を踏まえながら、全庁的な体制で対

応を図っていく。

5－3 フォローアップ方針

本計画は、敦賀斎苑の施設整備の基本的な考え方を設定するものであり、敦賀市総合計画基本計画において、整備年次や個別に事業費を精査していく。

また、施設の課題やその時代で求められる施設機能を検討し、敦賀市公共施設等総合管理計画との整合性を図りながら、本計画の見直しを行うものとする。